

オープン・スペース運動の発展へのオクタヴィア・ヒルの貢献とその評価

Octavia Hill's Contribution to the Growth of the 'Open Space' Movement in Gt. Britain: An Evaluation

中 島 直 子 Naoko NAKAJIMA

本学位論文の概要は以下の通りである。1.は目次の章・節の見出し，2.は要旨である。3.は主要な文献資料ならびに筆者によるオクタヴィア・ヒルに関する参考論文である。

1. 目 次

図と表の一覧表

凡例

本論文に記述のある都市の位置

イングランドの県と県名

さし絵（オクタヴィア・ヒルの肖像画）

第I章 序：研究の目的とその方法

1. 本研究の問題意識
2. ヴィクトリア期のロンドン
3. オクタヴィア・ヒルの略歴

第II章 ヒルの著作とヒルに関する先行研究

1. 英語圏における主要な文献
2. 日本におけるヒル研究

第III章 英国におけるオープン・スペース運動の起源

1. 用語Open spaceの語源とその普及
2. ロマン主義思想のオープン・スペース運動への影響
3. オープン・スペース運動の始まり：二つの起源

第IV章 よい住宅と住宅経営への要求

1. ヒルの住宅経営への問題意識
2. ヒルの住宅事業の規模
3. 小住宅とオープン・スペース

第V章 ヒルのオープン・スペースへの関心とその原点

1. ヒルのオープン・スペースへの関心
2. ヒルのオープン・スペース意識の原点

第VI章 ヒルのオープン・スペース運動の内容と発展

1. ロンドン都心のオープン・スペース運動
2. ロンドン郊外のオープン・スペース運動
3. 湖水地方のオープン・スペース運動

第VII章 ヒルとカール協会，その他のオープン・スペース運動組織

1. カール協会
2. オープン・スペース運動の諸組織
3. オープン・スペース運動の発展と貢献

第VIII章 草創期の都市計画運動へのヒルの関心

1. ヒルとグリーンベルト論
2. ヒルの田園都市運動への関心
3. 議論：草創期の都市計画運動へのヒルの貢献

第IX章 オープン・スペース運動のリーダー‘オクタヴィア・ヒル’

1. ヒルに影響を与えた主要な人物と思想
2. ラスキンの思想とヒルの社会活動との関係
3. ヒルに影響を与えたその他の主な思想
4. オープン・スペース運動のリーダーとしての資質

第X章 オープン・スペース運動へのヒルの貢献の軽視

1. 20世紀の地理学および都市計画分野の研究者による軽視
2. オープン・スペース運動へのヒルの貢献

第XI章 結論：人文地理学への二つの教訓と要約

あとがき／謝辞／文献／英文要約／図表

参考資料／写真・オクタヴィア・ヒルに関する年表

2. 要 旨

オクタヴィア・ヒルOctavia Hill (1838～1912)は，19世紀後半の英国の著名な社会改良家である。住宅改良家としてのヒルの活動は早くから注目され，ナショナルトラストthe National Trust for

Places of Historic Interest or Natural Beautyの創設者としても知られる。しかし大都市ロンドンの環境に著しい変化が現れたヴィクトリア期に、オープン・スペースの重要性を唱道した彼女の活動、すなわちオープン・スペース運動 open space movementの発展への貢献と先見性は、母国、英国においてさえ十分に理解されていない。

日本においてオープン・スペースとは、自然的要素の多い公共空間と定義されるが、英国では公開されている民有の庭園や広場なども含む公園、コモン、フットパスなどの共用空間を指す。本論では、公開されたオープン・スペースを国土に配置することを都市・農村計画の基本とする英国の思想が、いかなる意識から始まり、社会の批判を受けながらも、公衆の支持と理解を得ることに成功したのかという問題を、ヒルの関心と行動を軸として考察する。彼女が著した複数の論文・報告文・書簡などから直接的に、オープン・スペースに対する彼女の意識と運動の展開をたどり、その底流にある英国の環境思想の原点を明らかにする。運動家たちが行政と世論を先導し、多数の人たちが様々な方法で関与するオープン・スペースの保護と公開を目指す諸活動を、本論ではオープン・スペース運動 open space movementと述べる。同時にロンドンを中心に成長し、郊外さらにUK全体へと拡大したオープン・スペースの保存、造成、公開などを求めた一連の運動もまたオープン・スペース運動という総称で論じる(第I章)。

彼女のオープン・スペース運動は1865年に始まる。最初は寄付を集め、子どもの遊び場をスラムのそばに造成し、閉鎖されている「使われない埋葬地」を教区教会の協力により公園に整備し、一般公開するというロンドンの都心で誕生した活動であった。1875年のスイスコテッジフィールズの保護運動を経て、1879年にはロンドン北西部のハムステッドヒースに連なるコモン、パーリヤメントヒルの保存運動へと彼女の活動範囲は広がる。この場所はロンドンに居住する労働者が、家族と徒歩で訪れ夏の週末を過ごすことができる残り少ない、それゆえに貴重なレクリエーションのためのオープン・スペースであった。1880年代末から活動は英国南東部のウィールド丘陵の広い眺望を見渡せるフットパスやコモンを保護する活動へ、さらに英国北西部湖水地方を探勝し湖水や山岳の風景を観想できるコモンやフットパスを

保存する運動へと空間的に拡大する。運動は、オープン・スペースの意味と重要性に対する英国人の意識に変革を与えつつ発展する(第VI章)。

1875年にヒルは姉ミランダと「労働者階級の家庭に美を普及する」組織を創り、この組織からカール協会 Kyrle Societyが成立する。ロンドンのカール協会にはオープン・スペース部会のほかに、装飾、音楽、図書各部会があった。カール協会においてヒルは、オープン・スペース問題に深い関心を寄せるアーツ&クラフツ運動の芸術家たちと共に活動する。1879年から成功までに10年を要した先のパーリヤメントヒルのオープン・スペース運動の支持者や請願活動の内容、ならびにほぼ同時期にロンドンで開催された演説会などの状況から、運動は中産階級のみならず、1880年代末には労働者階級の一部からも支持を得たことが理解される。1891年には、コモンズ保存協会ケント・サリー委員会がヒルにより設立されると、ロンドンを中心としてオープン・スペース運動を行う組織は、コモンズ保存協会(1865年)、カール協会(1877年頃)、首都圏公共公園協会(1882年)を合わせ四組織となる。

オープン・スペース運動家と上記四組織は、運動の規模と内容に応じて協力体制を築き、1890年代にオープン・スペース運動は全盛となる。ヒルは1870年代から慈善活動や地方行財政への提案、法規改正を求める運動、世論形成など社会的諸条件の改善を一貫して進め、オープン・スペース運動組織のネットワーク形成の中心人物として活動した。1895年、オープン・スペース運動は、スコットランドを除くUK各地のオープン・スペースの保護を目指す民間の環境保護団体ナショナルトラストを創設する、という結実をみる。彼女はハンター Hunter (1844~1913)、ローンズリー Rawnsley (1851~1929) と共に創設者の一人となる(第VII章)。

1890年代のオープン・スペース運動の全盛期は、英国で都市計画の必要性が求められ、周囲にグリーンベルトをもつ都市ならびに田園都市を都市・農村計画の基本とする概念が形成される時代であった。19世紀末のおおよそ10年余の間に、前述した通りヒルはロンドン郊外の開発と保護をめぐる多くの議論と活動にオープン・スペース運動家として関わった。オープン・スペース運動と都市計画運動の関係性という問題はこれまで論じ

られていない。ヒルの著した論文、当時の活動状況などから、彼女はロンドンのグリーンベルトと田園都市思想の誕生と実現に影響力を発揮した、という仮説を立てこれを検証する（第Ⅶ章）。

ヒルは社会改良家サウスウッド・スミス Southwood Smith（1788～1861）を祖父に持ち、労働者の子供たちへの教育実践に熱心な父母 James Hill（?～1872）、Caroline Hill（1809～1902）を持つ家庭環境下で育った。また1850年代～1870年代にかけて、キリスト教社会主義者 F. D. モーリス Maurice（1805～1872）、芸術評論家ラスキン Ruskin（1819～1890）という傑出した人物から直接的に指導を受けるという稀有な教育環境を得た。オープン・スペース運動家ヒルが家族や恩師から受けた感化の内容と結果を年代別に論じる。またヴィクトリア期の次の三思潮もオープン・スペース運動を推進するヒルの活動に影響を及ぼした。第一はイングランド教会の創造主と被造物に関する教え、第二は福音主義思想である。後者は、社会改良に個人として積極的に関わろうとする思想の源泉となるが、特定の宗派、階級、性別に限られない多数の英国人に支持された。第三は、科学技術の誕生と発展、ならびに産業革命以降に顕著となった開発に対抗して意識され始めたロマン主義思想である。ヒルが幼少時代に得た家庭環境、傑出した恩師からの指導に加え、上記三つの時代思潮は相互に関連し合い、ヒルの行動に間接的な感化を与え、オープン・スペース運動のリーダーを誕生させる。彼女は恩師からの指導を自分の思想としてよく消化し、さらに時代思潮を運動の推進条件として、オープン・スペース運動の発展に貢献する（第Ⅸ章）。

オープン・スペース運動の指導者としてのヒルの貢献は十分に知られず、20世紀の地理学ならびに都市計画関連の専門分野の学界で評価を受けていない。その事実を検証し、正当に評価されなかった複数の事由を、第一に彼女自身の行動に関わるもの、第二に未発達な学界の状況など外的諸条件によるものに大別して考察する（第Ⅹ章）。本学位論文において筆者はヒルのオープン・スペース運動の全展開を明らかにし、貢献の広がりや影響力の深さを評価する。

最後に筆者は人文地理学研究に対して二つの教訓を提示する。第一は、人文地理学者はオープン・スペースの供給という歴史的背景、つまりオ

ープン・スペース運動という活動が19世紀後半の英国で全盛期を迎えていたという事実と発展過程を明らかにしていない、という論点である。第二は、特定の個人に関する研究の可能性の提示である。ヒルのような卓抜した能力を持つ個人を人文地理学の研究対象に加えることにより、個人の他者への働きかけによって、当時の人間の意識や世論が、また組織や政治の姿勢がどのように変化し、オープン・スペース運動を進展させ現在に至ったのかという状況を理解できる。本論は特定の個人に関する、人文地理学分野からのアプローチである（第Ⅺ章）。

3. 主要参考文献

学位論文の論拠となる文献に関しては、第Ⅱ章ヒルの著作と先行研究、において論じてある。その中から引用の中心となるヒル自身が著した複数の文献ならびに義弟エドモンド・モーリスが編集した書簡集を以下に示す。筆者が論じた（共著を含む）学位論文以外のヒルに関する参考論文も併せて記載する。

Hill, O. 1877. *Our common land (and other short essays)*. London: Macmillan and Co.

Hill, O. 1883. *Homes of the London poor*. London: Macmillan and Co.

Hill, O. 1884. Colour, space, and music for the people. *Nineteenth Century* 15: 741-752.

Hill, O. 1888. More air for London. *Nineteenth Century* (February): 181-188.

Hill, O. 1899. The Open spaces of the future. *Nineteenth Century* (July): 26-35.

Hill, O. 1905. Natural beauty as a national asset. *Nineteenth Century* 58: 935-941.

Hill, O. 1907. *Letters to fellow workers 1872-1907. Letter accompanying the account of donations received for work amongst the poor*. London: James Martin, Printer.

Maurice, Edmund 1913. *Life of Octavia Hill as told in her letters*. Macmillan and Co. Limited, London.

Nakajima, N., and Wise, M. 2003. Octavia Hill and human geography: some questions. *Acorn, Journal of the Octavia Hill Society* 2: 30-38.

中島直子 2000. オクタヴィア・ヒルにみる19世紀末の英国の環境思想について. 群馬県立女子大学紀要 21: 199-215.

中島直子 2003. オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動の発展への貢献. 地理学評論 76-14: 1001-1024.